



2017年の新年会並びに新春講演会を、1月23日(月)、前橋商工会議所会館において開催。大澤知事をはじめ、国会議員、県議会、行政機関、金融機関、友好団体等の来賓を含め、総勢160名余が出席し、新たな年の訪れを祝いました。

新年会の開会にあたり、金子正元会長が「社会・経済環境が大きく変化する中、本会会員の中小企業組合では、共同受注、研究開発、人材育成など1社での実施が困難な事業や、街づくり、災害対応等、社会インフラとしての機能を発揮している組合も多い。

本会では、国・県の施策に対応した事業にも積極的に取り組むと共に、中小企業が少しでも明るく元気になるための新しい施策、制度の実現にも対応しながら、組合等中小企業連携組織の支援を通じ、組合員企業の発展、群馬県経済の活性化に寄与して参る所存であると挨拶した。



金子会長

続いて、群馬県知事・大澤正明氏が登壇し「今年は県政の新たな羅針盤となる『群馬県総合計画』の2年目。何といつても人口減少問題が喫緊の課題であり、群馬に『人・物・情報』の流れを呼び込んで、群馬の未来を創生していく努力をしていかねばならない。



大澤知事

また、広域幹線道路の整備が着実に進む中、コンベンション施設整備に取り組み、企業誘致や観光誘客をさらに推進し、県内経済の活性化に努めて参りたい。本県経済の発展には、中小企業の活力が不可欠であり、県としても中央会と力をあわせて中小企業の支援に努めていく」と決意を述べた。

✓次いで、群馬県議会議長・星野寛氏、日本銀行前橋支店長・神山一成氏から祝辞を頂戴した。

星野氏は「県内景気は緩やかな回復基調と言われる中、本当に実感できるように、また、県内隅々にまで行き渡るよう、しっかりと取り組んでいく。また、群馬県の来年度予算編成に対して、県議会として主張すべきことを主張し、



県議会・星野議長

しっかりと県内経済の進展のために取り組みたい」と力強く語った。



群馬銀行・齋藤頭取

来賓紹介の後、鏡開きを行い、群馬銀行頭取・齋藤一雄氏が「素晴らしい協同・協調関係を結んでいきたい」と挨拶し乾杯の発声を行い、出席者は懇親を深めた。



日銀前橋支店・神山支店長

神山氏は「2017年、経済の風向きは、逆風から追い風に変わってきていると感じる。県内の中小企業が元気になって初めて、県内経済が真に回復するという認識のもと、群馬県経済のより一層の発展に向けて、地域金融機関の各種の取組を積極的にサポートして参りたい」と抱負を語った。



組合女子職員研修会



会社概要でのクイズ

11月9日、毎年恒例の組合女子職員研修会を開催した。今回は、20名が参加し、静岡県裾野市の株式会社ヤクルト本社富士裾野工場、神奈川県足柄下郡箱根町の箱根関所・箱根関所資料館、箱根駅伝ミュージアムを見学した。

株式会社ヤクルト本社富士裾野工場は、国内最大生産拠点で、神宮球場16個分という広い敷地内に製造工場から排水処理までの施設があり、品質管理では、「ISO9001」等、環境管理では、「ISO14001」を導入している。

まず、会社概要や商品説明のビデオを視聴し、その後の工場見学では、簡易なエアージャワーを体験し、培養、調合、充填などのジョアの生産工程を見学した。

併設する箱根関所資料館では、各種の関所手形をはじめ、古文書、武器類など箱根関所に関する資料が収蔵・展示されていた。

最後に見学した箱根駅伝ミュージアムは、箱根駅伝往路ゴール・復路スタート地点の目の前にあり、第1回大会から第92回大会まで長きにわたる箱根駅伝の歴史をテーマで区切り、年表や貴重な写真で紹介している。さらに、ボランティアガイドの案内で、箱根駅伝の変遷や、ユニフォームの秘密な



京口御門

次に見学した箱根関所は、1619年、江戸時代第一の主要道路である東海道を監視するために徳川幕府によって設置された重要な関所であり、2007年春に約140年の時を経て大番所・上番休息所、雪隠、足軽番所、江戸口御門、京口御門が完全復元され、調度品などと共に公開された。

◎研修を終えて
事務局女子職員同士のネットワーク作りが大いに役立てたかと思えます。次回の参加も心よりお待ちしております。



ヤクルトでの集合写真



箱根駅伝ミュージアム

ど、テレビ視聴だけではなかなか知りえない情報を聞くことができた貴重な時間となった。

中堅リーダー研修

10月19～21日、渋川市・ホテル天坊において、県内各地から中堅管理・監督者28名の参加を得て、第50回中堅リーダー研修を開催した。

今回の研修も、中小企業診断士や心理学カウンセラーの資格を有する経営教育コンサルタントの雨宮利春氏が講師を務めた。



雨宮利春氏

雨宮氏は、リーダーシップの考え方に変化が表れているとし、「従来は指導力や統率力といった意味で捉えられてきたが、新しい考え方は、影響力という幅広い意味で捉えられるようになってきている」と述べた。

そこで提唱しているのが「サーバントリーダーシップ」である。これは、リーダーの仕事はサービ

ス業と定義して、リーダーは部下の成功に奉仕すべきとするリーダーシップ・スタイルの事を指す。

参加者は、3日間を通して行われたグループ討議による事例研究、ロールプレ等の体験により、サーバントリーダーに求められるスキルである「傾聴のスキル」や「問題解決手法」、「プレゼンテーション技法」、「部下指導・動機づけの技術」等を学んだ。

雨宮氏の研修の特徴である、自身の資格を活かした「財務知識」や「メンタルヘルス」に加え、「パワハラ」の解説では、今回は映像を流すなど、より具体的でわかりやすい内容となった。



研修中の様子

企業の採用担当者による
出前講座

11月30日、伊勢崎市・上武大学伊勢崎キャンパスにおいて、中小企業等の若年者人材採用力強化支援事業の一環として、企業の採用担当者による出前講座を開催。

本出前講座は、上武大学の2年生・教職員を対象に、県内企業の採用担当者より、「企業が採用したい学生像」「県内企業で働くことの魅力」「学生時代にやっておくべきこと」「面接での採用担当者としての視点」等について、学生の理解を深める目的で行った。



大勢の学生が参加

講師は、株式会社栗原医療器械店人事課担当係長・五十嵐恵一氏、株式会社サカエ総務部長・西村真由美氏の両名。

まず、五十嵐氏は、「就職活動の出遅れは致命的だが、フライングは問題ない。やれることを少しずつでいいので準備することを意識してほしい」と述べた。

次に、西村氏は、「選考の場合は、会社と応募者との共通点探しの場所。面接は、応募者の価値観をチェックする場であり、情報収集するインタビューの場と考えている」と語った。



西村真由美氏



五十嵐恵一氏

◎研修会・出前講座を終えて
企業にとって大切な要素である「人材」の確保・育成に対する事業を今後も積極的に実施します。

群馬県中小企業団体事務局長会 冬季研修会

うっかりミスはなぜ起きる



群馬県中小企業団体事務局長会（田部井俊勝会長）では、12月8日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、冬季研修会を開催した。

今回は、群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部准教授・五十嵐博氏が「うっかりミスはなぜ起きる」をテーマに講演を行った。



五十嵐博氏

五十嵐氏はまず、某大学病院で起こった手術患者の取り違いや、証券会社で金額と株数を間違えて発注してしまったミスなど、「うっかりが原因で起こった様々なミスを紹介。

その後、ミスは、①ミスティク（錯覚、勘違い、誤判断）、②スリップ（やり損ない、押し間違い）、③ラプス（失念、記憶にまつわるミス）の3つに分けることができる」と解説した。

最後に、「うっかりミスの防止策として、①ミスティクには、見

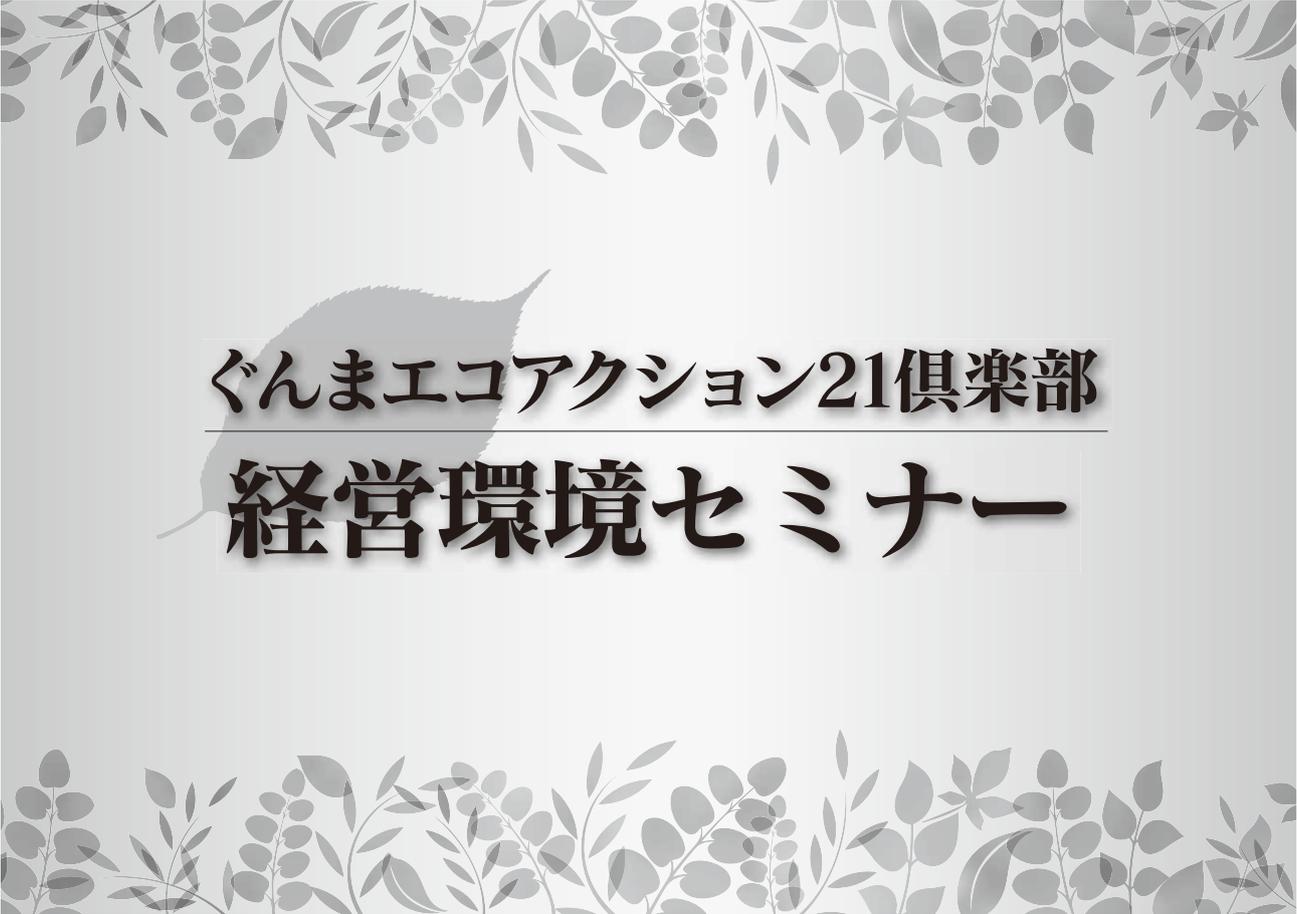
やすく分かりやすい表示、指差し呼称、確認会話、②スリップには、指差し呼称、標準化等による動作ミスの防止、③ラプスには、意識的に注意する、定期的に思い出すことにより記憶ミスを防ぐ等の対策を講じる必要がある」と述べた。

研修会終了後、懇親会を開催。田部井会長が主催者挨拶を行った後、株式会社商工組合中央金庫前橋支店次長・山本崇史氏が乾杯の発声を行った。終始和やかな雰囲気の中、親睦を深めた。



山本崇史氏による乾杯

◎研修会を終えて
うっかりミスが原因で大きな事故等に繋がる場合もありますので、意識して注意していきたいです。



ぐんまエコアクション21倶楽部 経営環境セミナー

法令	改正施行日
フロン排出抑制法	平成27年4月1日
地球温暖化対策推進法	平成28年5月27日
PCB廃棄物特別措置法	平成28年8月1日
労働安全衛生法	平成29年3月1日
建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律	平成29年4月1日
廃棄物処理法	検討中

ぐんまエコアクション21倶楽部（林整会長）では、12月8日、前橋市・群馬県勤労福祉センターにて、経営環境セミナーを開催した。今回は、株式会社環境評価機構代表取締役・片亀光氏が、「最新の環境関連法規と今後の改正動向について」をテーマに講演を行った。片亀氏は、まず、「パリ協定」、「電力自由化と原発再稼働」、「OPE C減産合意」といった環境問題を通る最近の動向について説明。次いで、注目すべき環境関連法令として、左記表の6つの法令を挙げそれぞれの法令の改正概要、今後の改正の動向について解説を行った。

◎セミナーを終えて
環境経営への取組は今後ますます重要になっていくと思います。今回のセミナーが、今後の環境経営のヒントになれば幸いです。



講習会の様子

環境経営については、「無理なこととは長続きせず、バランスが重要である。当然、企業である以上は経営面に重きを置くのが自然だ」と思うが、環境面ともうまくバランスをとり、環境への取組を通して、社員の自覚、プライドを奮い立たせ、やる気を引き出し、現場から新しい改善提案が出るような職場環境を醸成して欲しい」と述べた。